

Pentecost

ペンテコスト

知っておきたいキリスト教のことば (185)

ペンテコステ ペンてこすて

「ペンテコステ」は、ギリシア語で 50 番目という意味の言葉です。過越祭から 50 日目にあたるこの日には、ユダヤ教では七週祭(五旬祭)がおこなわれます。七週祭とは、春の収穫を感謝するお祭り(礼拝)です。

イエス様は、過越祭の日に復活されました。そして 40 日にわたって弟子たちに現れたあと、天に上げられた(昇天)と使徒言行録 1 章には書かれています。

そして昇天から 10 日後の七週祭のとき(この日は復活日から 50 日後に当たります)、約束の聖霊が降ったと使徒言行録 2 章 1~13 節には記されています。

この聖霊が弟子たちに降った日を、キリスト教では聖霊降臨日、ペンテコステと呼ぶのです。聖書の記述を読むと弟子たちの上に炎のような舌がとどまるとあります。その炎を意識して、ペンテコステの日の祭色は赤となっています。

日本ではクリスマスが一番盛大に祝われ、イースターはその次という感じですが、海外のキリスト教国ではイースターが一番盛大、続いてクリスマス、そしてペンテコステという感じですが。この三つの日は「三大祝祭」と呼ばれ、どれも大切にされています。

また使徒言行録 2 章 14 節以降に、聖霊を受けたペトロが説教をし、その日のうちに 3000 人ほどが仲間に加わったという記事があります。そのことからペンテコステを、「教会の誕生日」として祝うようにもなりました。

聖霊(霊)という言葉には、「風」や「息」という意味も含まれます。ペンテコステには祭色の「赤」も含め、風や息を意識して礼拝できればいいですね。

次回は「奉献」です。お楽しみに。



「ペンテコステ」

ジョン・レストアウト

(1692 - 1768 年)

すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

(使徒言行録 2 章 4 節)

